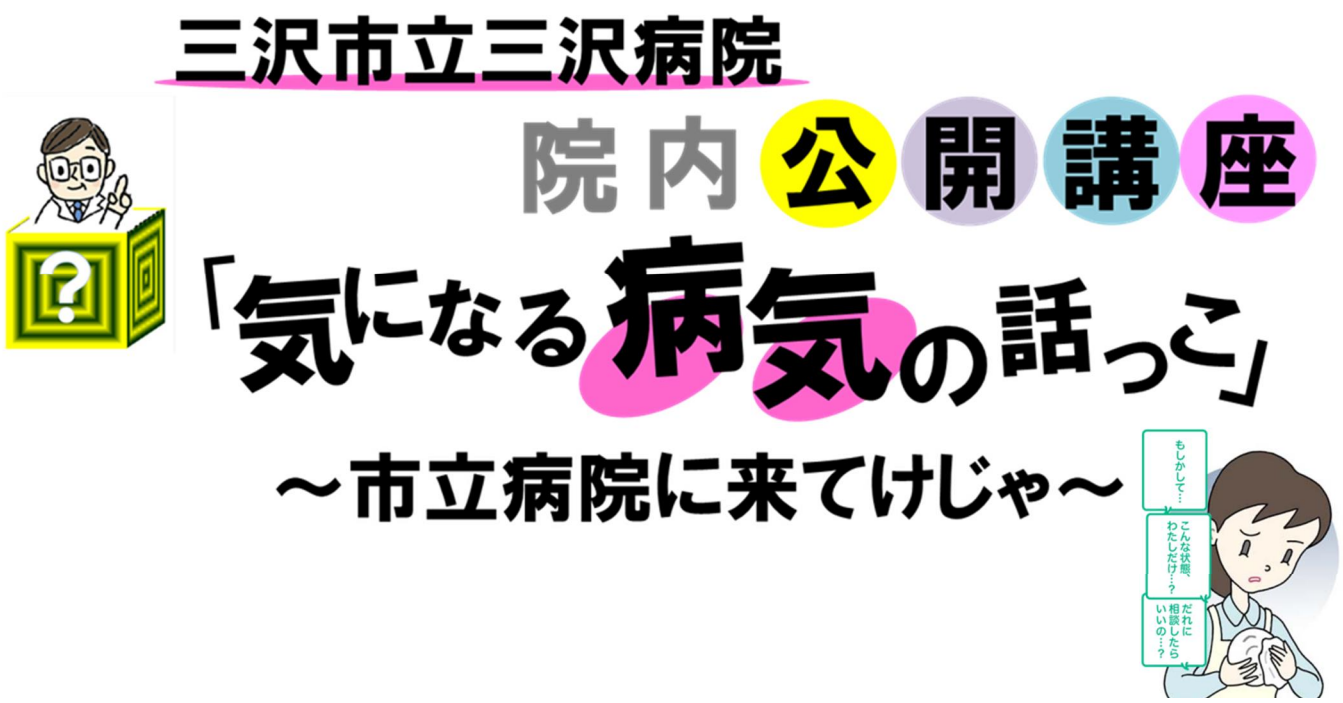

「気になる“女性の病気”の話し」

2017. 2. 16

講師：丸山　英俊　産婦人科医長

今回の院内公開講座は、更年期障害、子宮頚がんおよび子宮体がんについて説明します。また、本年２月に導入された『母体胎児集中監視システム』についても紹介します。

更年期障害

更年期障害の症状と原因

更年期障害の三大症状は、ほてり（ホットフラッシュ）、冷え性、のぼせです。その他にもめまい、むくみ、肩こり、動悸、頭痛、便秘、腰痛、疲労倦怠感、不眠などさまざまな症状があります。原因は閉経前後の女性ホルモンの低下であり、女性ホルモンの値は血液検査で求めることができます。

治療方法

女性ホルモンが低下している場合は、ホルモン補充療法が有効な治療方法となります。薬剤には飲み薬、張り薬、塗り薬などさまざまな種類があり、これらを症状に合わせて使い分けことができます。ホルモン補充療法を行う場合は、ホルモン投与で悪化する可能性のある乳がん、子宮体がんの検査を必ず行う必要があります。

注意点

更年期障害と全く同じ症状であっても更年期障害でない場合もあります。うつ状態、慢性腎不全、心筋梗塞、中には子宮頚がんによる重症慢性貧血の患者さんなどもご自分が更年期障害になったと考えて婦人科外来を訪れたことがあります。更年期の症状と思っても、我慢せずに医療機関を受診して正しい診断のもとに正しい治療を受けることが大切です。

子宮頚（けい）がん

早期発見・早期治療が重要

子宮頚がんは早期発見・早期治療で克服することができます。 子宮がん検診が集団検診や医療機関での個別検診として行われていますので、無症状であっても、早期発見のため、受診をお勧めしています。検診方法は擦過（さっか）細胞を採取して調べる『細胞診検査』で、検査は短時間で終わります。細胞診検査で異常が認められた場合は、『コルポスコピー下組織検査』などの精密検査が外来で行われます。 症状のない早期がんはこの段階で確定され、当院では原則 2 泊 3 日で子宮を残す（妊娠の可能性を残す）ことのできる子宮頚部円錐切除術を行っています。最近 10 年間で 126 例に円錐切除術が行われましたが、術後に再発した症例は見られていません。円錐切除を受けた症例のうち 12 例が妊娠・分娩に至っていました。

妊娠時には検診を受けましょう

妊娠時に交付される母子手帳には、子宮がん検診のクーポンが入っており、無料で子宮がん検診を受けられます。 最近 3 年間では、 妊娠初期に細胞診検査を受けた 1173 名の妊婦さんのうち、31 例 (2.65%)に異常が認められました。この 31 例から早期がんが 3 例、進行がんが 1 例発見されました。

子宮体がん

子宮がんの中には、子宮頚がんのほかにもう一つのがんがあります。それが子宮体がんです。

症状と原因

子宮体がんは女性ホルモンの異常によって発症すると言われています。症状は不正性器出血や帯下（おりもの）の異常増加です。近年、子宮体がんは増加傾向にあり、最近は子宮頚がんよりも多くなったとされています。

異常がみられたら早めの受診を

不正性器出血、帯下の異常増加などの症状がある場合、早めに婦人科を受診することが大切です。まず子宮体部の細胞診検査が行われ、早期に診断することにより早期の治療が可能となります。

母体胎児集中監視システム

本年２月、市立三沢病院『母体胎児集中監視システム』が導入されました。このシステムにより、周産期情報(胎児心拍数、母体陣痛強度、陣痛周期、母体血圧など)を院内すべての電子カルテで共有できるようになりました。また、院外でも産婦人科が携行しているタブレット端末で周産期情報を把握することができるようになりました。今回のシステム導入によって、産婦人科医が分娩室外で業務を行っている最中であっても迅速に判断・指示・対応を行うことが可能となり、今までよりも安全な妊娠・分娩管理ができる体制がつくられました。母体胎児集中監視システムは、防衛施設と周辺地域との調和を図ることを目的とし、防衛省の補助事業を活用して整備されました。

母体胎児集中監視システムが設置された産婦人科外来診察室